

### 3学期終業式の話に代えて

～今だからこそ大事にしてほしいこと～

令和2年3月23日

校長 北爪 徹

突然、休校になってから3週間余り経ってしまいました。本来であれば3月23日（月）は3学期の終業日であって、終業式や離任式を行い学年末成績を渡すはずでありましたが、中止や新年度に繰り越すこととなってしまいました。

授業や部活動ができない中で、毎日を皆さんはどのように過ごしていますか。学習スタイルができあがっている人は、自学自習を続けている人もいるでしょうが、SNSに過度に浸ってしまっていないでしょうか。普段であれば学校で話ができるのに、それが叶わないために延々と続けてしまったり、顔が見えないだけに相手の言葉に傷ついてしまったり、逆に相手の心を傷つけてしまったり。学校に行くことができず、友達と話をすることが少なくなることは、それだけで大きなストレスだと思います。

部活動も中止のため、運動部の人個人でのトレーニングが中心にならざるをえません。おそらく多くの方が普段のような練習ができず、体力が低下してしまっているかもしれません。

今回の休校は、夏季休業のようにあらかじめ設定された休業ではないため、皆さん自身の目標やモチベーションの維持が困難な状況であることはよくわかっています。そんな時だからこそ、少しでも有意義に過ごしてもらいたいです。

確かに、運動や学習を一人で続けていくのはかなりたいへんだと思います。しかし、一人でできることもあります。そのうちの一つに本を読むことがあります。普段、本を読むことがない人や本を読む習慣のない人は、こんな時だからこそぜひ本を読んでもらいたいです。できればライトノベルではなく、新書や読み応えのある本にしてください。今まで自分の知らないことに出会えたり、ものの見方が変わるきっかけになるとと思います。本を読むことは、自分の頭を鍛える格好の方法です。

今回は、新型コロナウイルスの発生により、当たり前が続くと思っていた日常生活が、前触れもなく突然に変わらざるをえなくなっていました。そんな時にこそ、どう行動すればよいのかを主体的に考えてもらいたいです。言われたことをそのまま鵜呑みにしたり行動したりするのではなく、自らの頭で考えてみる。考えた上で行動する。例えば、離れ離れになってしまう人にどうしても会っておきたいと思えばきちんとした対処をして会うとか、友達とどこかに出かけようと思ったけれども微熱があるから取りやめるとか。日常の生活を送る中でも、主体的に考え行動することはとても大事なことです。

その主体的な考えを育むのが読書です。普段、授業を中心に行われている学習（勉強といってもよい）は、「具体的に何かを解決するためという、目的のはっきりしたもの」です。だからこそ、答えがあるのです。しかし、今回のようなことにはあらかじめ答えがあるわけではありません。「想定外」のことが発生している状況では、知識があるだけではだめなのです。

確かに、今回の新型コロナウイルスは国家規模、世界規模の「想定外」の出来事ですから、皆さんが考えて解決できることではありません。しかし、これから先、皆さんが生きていく中では必ず「想定外」のことが起こるということは覚悟しておいてほしいのです。想定外の事態をどう乗り越えるのか、その時皆さんの真の力が問われるのです。そして、想定外の事態を乗り越える力を育んでくれるのが読書だと思います。先人が試行錯誤しながら導いてきた知識の体系に触れ、先人がどのように考えてきたかを自分が追体験し学ぶことは、自分が生きていく上で大きな参考となり、自身に力強さを与えてくれます。断片的な知識だけではなく、物の見方の多様性を知ること、自分自身の「知」を深めることであり、想定外の現実に対応するうえでも欠かすことのできないことでもあります。

学校で行う勉強のように具体的な目標を設定し行うのももちろん必要ですが、問題の解決を目標にするだけではない、自分の未来にどこかで役立つ学びをすることは、高校時代に絶対必要だと私は思っています。大学に行ってから始めようと思うのは遅すぎると考えています。

休校で突然できてしまった時間をぜひ有効に使い、自分の内面を少しでも高めてもらいたいと願っています。